新・みやぎ・シー・メール第１号

発行：平成３０年５月１８日
宮城県水産技術総合センター　〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6
TEL:　0225-24-0159　FAX:　0225-97-3444

コンブ類の付着生物について

企画・普及指導チーム

１　養殖マコンブの生産状況等について

宮城県産のマコンブはほとんどが養殖物で、11月に養殖を開始し、約半年後に全長６ｍ前後、葉幅20ｃｍで出荷します。養殖マコンブは、葉肉が薄く、柔らかいのが特徴で、きざみコンブやむすびコンブなど煮物に適しています。国内コンブの生産量は近年３万５千トン前後で推移し、北海道が約６～８割を占めていますが、付着生物やヨコエビ類の食害等で、品質低下と生産量の減少が課題となっています。主産地の不漁の知らせが広がると、在庫不足等の懸念が生じて、三陸産のマコンブが注目を浴び本県の生産量は１千トン程度ですが、単価は上昇します。しかし、それは品質が良ければの話で、実は本県のマコンブも北海道と同じ課題を抱えています。今回はコンブ類の付着生物について報告します。

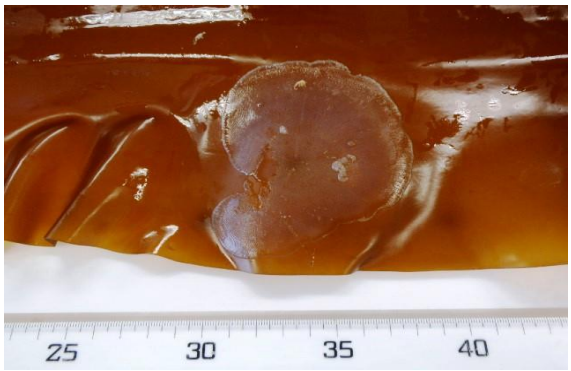
２　コンブ類の付着物生物とその対応

コンブ類の品質に影響を与える付着生物の中で、とてもやっかいなのが「ヒラハコケムシ」と「モハネガヤ」です。これらは生活史に不明な部分が多いため、有効な防除対策がありません。

（１）ヒラハコケムシについて

ヒラハコケムシの知見を簡単に紹介します。①コケムシ科の海産小動物（個虫と呼ばれる）②個虫（約 0.5mm）は、海藻の上を平らに覆う群体を作る③個虫は石灰質でできた長方体の虫室と虫体からなる④幼生は海中を １ ヶ月程度浮遊する⑤宮城県沿岸では３～４月頃からワカメ・コンブの葉体上に現れる⑥浜では「ガン付き」「しろっこ」と呼ばれている。

ヒラハコケムシが見え始めたら、蔓延する前に刈り取るほか手立てがないのが実状です。除去した部分は持ち帰り陸上で処分することが望ましい対応です。



葉体上に広がったヒラハコケムシ

（２）モハネガヤについて

次にモハネガヤの知見を簡単に紹介します。①刺胞動物ヒドロ虫の仲間である②コンブの表面にクモの巣状に着生し、触手の高さは３ｃｍ程度③生活史はほとんど不明④浜では「ひげっこ」と呼ばれ、商品価値を損ねる。

写真のとおり、コンブの表面を這うような根は、葉肉の組織内に食い込んでいます。こうなると除去は不可能ですし、商品価値はありません。この場合もコンブにひげ状のものが見え始めたら早めに刈り取るしかありません。

葉体に付着したモハネガヤ

ヒラハコケムシ及びモハネガヤは、マコンブ養殖にとって難敵以外の何ものでもありませんが、ウニはコンブと一緒に付着物を食べるようです。今後、ウニの畜養餌料としての活用を検討する価値はありそうです。